

2020.8.15

紙つづて

SNSの時代、私はツイッターだけ使っている。怠け者で、リア充アピールも友達関係のメンテナンスもとてもできない私にとって、ツイッターはちょうどよいツールのようである。

ツイッターは百四十文字以内の「つぶやき」だが、「である」でつぶやくときは、完全に自分の領域におけるつぶやき。誰に迷惑をかけるつもりもなく、反対に、質問を受けて答える筋合いもない、私だけの世界。ただそれを見た人がヒントを得て思考を深めてくだされば一つの楽しみだ。

SNSの嫌なところは、驚くほど無礼なコメントが入ってきたり、炎上して面倒になったり、というところだろう。でも、私は自分の百四十文字



SNSの使い方

水島 広子

は自分の敷地と想っていて、表現には責任をとるけれど、それについて何か言われても、それはどうぞよその敷地で自由に、ご自分の責任で。私は自分で勝手につぶやいているだけで、それが誰かのお役に立ったりヒントになったりすることが結果としてあつたらうれしい、という程度。言い返さないので特に炎上しやすい方ではない。「ふーん」と読み流す感じ。

「ごますます」のときはやりとりを意識するが、主には著書を読んでいたお礼。別に人気稼ぎではない。お礼を言うことは、私にとって「与えるモード」の、心が開かれた気持ちなので、すごく大切な癒やしタイムである。(精神科医)